

特別支援教育キャリアアップフィールド

中学校知的障害特殊学級における作業学習の実践的検討

附属中学校	松 井 実 *
岐阜市立本荘中学校	若 岡 昌 樹 **
附属中学校	松 本 和 久
同	長 屋 裕一郎
同	上 野 智 子
障害児教育専修	坂 本 裕

* 平成16年度12年目研修生

** 平成17年度12年目研修生（前・附属中学校）

はじめに

我が国の知的障害児教育は子どもたちの興味関心や生活を重視する生活中心教育が中核であり、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習として取り組まれてきた（太田、2001.、千葉大学教育学部附属養護学校、2002b）。しかし、知的障害特殊学級においてはその担任の多くが専門性の低かったり、経験年数の3年未満の者が多数であったりすることから、生活中心教育、その中でも特に作業学習に取り組んでいない中学校特殊学級が7割近くに達している地域もある（坂本・西・緒方、2002.、坂本・杉山・杉山、2002.）

また一方において、知的障害児教育においても、これまで以上に職業的な自立の推進が求められるようになり、養護学校高等部や高等養護学校において作業学習の見直しなどが積極的に進められている（教育課程審議会、1998）。

こうした中学校特殊学級と養護学校高等部、高等養護学校の基本的な教育実践の方針の異なりが、中学校特殊学級に在籍する知的障害のある生徒たちの養護学校高等部や高等養護学校への移行を必要以上に混乱させてい

る感がある。

本稿では上述したような状況を踏まえ、中学校知的障害特殊学級において作業学習がその中心的な教育活動として再び展開されることを願い、中学校知的障害特殊学級にて実施した作業学習の授業実践に検討を加える。

方 法

1 対象校・学級

A 中学校知的障害特殊学級は各学年8名、合計24名の生徒が在籍しており、B市内及びその近郊から、徒歩または公共交通機関を利用して通学してきている。5名の専任の職員がおり、24名という特殊学級としては集団を活かした作業学習や校外学習を中心とした社会生活学習に年間通して取り組んでいる。

2 対象単元（授業）

本単元は「校舎長会の記念品を納品しよう」をテーマとして、X年8月23・24日にB市を会場に行われる校長会研究会B県大会の参加者に渡す記念品256セットを作業学習で製作し、夏休みまでに納品した取組であ

る。活動を進めるにあたっては、① A 中学校の行事を担う取組にする、②参加者のことを考えた製品作りをする、③生徒主体の取組にする、④学校生活にまとまりがもてるようにするという4点に特に留意しながら約2か月に渡って展開がなされた。

3 検討期間・方法

X年5月から7月に作業学習を中心とした種々の活動を生活全体で展開していく中で、週日課の組み方や単元構成、授業展開、さらに、作業工程、作業量などがいわゆる生徒が主体的に取り組めるような「できる状況づくり」となっていたか検討を加える（千葉大学教育学部附属養護学校，2002a）。

結果と考察

1 週日課の仕組み方

単元期間中の基本的な週日課を図1に示したが、本単元の中心的活動である記念品製作を毎日1・2時間目に帯で配置した。また、3時間目の国語の時間も記念品に添える製品紹介のリーフレットや自分達の取組の様子を家庭が学校全体に知らせる新聞づくりなどにも取り組むようにした。さらに、週末には作業交流会として、各作業コースのその1週間の取組の様子を他の作業コースに知らせるための時間も確保した。軽度遅滞の生徒もいるために系統的な教科指導も必要であるために、文部省（2000）が知的障

害児教育における基本的対応のひとつとしてあげている「規則的でまとまりのある学校生活」とまではなっていない部分もあるが、このような時間配置とすることで、どの生徒も自分から見通しをもって作業などの諸活動に取り組む姿が見られた。

2 単元計画

単元計画（経過概要）は表1に示したように、活動内容を記念品製作とそれにかかわる活動で構成した。主となる記念品製作は256セットと予備分を目標とすることで毎日安定した作業活動となるようにした。また、作業長会や集会を週初めと週末に行い、全体の進行状況を各コースに知らせるようにすることで、全体での取り組みとなるようにした。そして、一人一人の生徒が見通しをもって取り組むことができるように、納品日までのカレンダーや製作目標数、完成数などを掲示した。さらに、関連する活動として、国語の時間に全国大会の会場で放映する活動紹介VTR、製品紹介のリーフレット、各作業コースの取組の状況を掲載した新聞を作製する活動も行うことでできるだけ生活全体をまとまりのあるものとするようにした。こうした単元計画をすることで、毎日の繰り返しの活動から見通しをもって作業に取り組んだり、最後まで頑張ろうとしたりする姿が見られるようになった。

月	火	水	木	金
作業学習				
国語	数学	国語	数学	国語
体育	音楽	体育	音楽	体育
給食・昼休み・掃除				
家庭生活学習	生徒会	社会生活学習	集会	学活
				作業交流会

図1 単元「校園長会の記念品を納品しよう」期間中の基本週時程

表1 単元「校園長会の記念品を納品しよう」の単元計画

月日	曜	主な活動			関連する活動
		木工コース	ミシンコース	印刷コース	
5/23	月	副校長先生からの依頼			5/24 作業長会 集会
5/25	水	試作品作り	作品検討、買い物計画	試作品図案作り	5/2 作業長会 コースター発注
5/27	金	道具・工具の使い方	物品の購入	図案作り Mコート	
5/30	月	↓	製品検討と工程確認	製版(試作品作り)	作業長会
6/ 2	木	第1ロット製作開始	「ハンカチ」試作品	コースター(試作品)	
6/ 3	金	ペンたての製作	製作開始(1日10枚)	コースター「鶴」	6/4 塗料と刷毛の購入
6/ 6	月	(製作150個)	↓	(1日180枚)	6/6 活動紹介VTR作成 製品解説作成 新聞作成
6/ 7	火	↓	↓	↓	作業長会
6/ 8	水	↓	↓	↓	
6/ 9	木	↓	↓	↓	作業長会
6/10	金	↓	↓	↓	
6/13	月	↓	↓	↓	作業長会
6/14	火	↓	↓	↓	
6/15	水	第1ロット塗装	↓	↓	作業長会
6/16	木	↓	↓	↓	
6/17	金	↓	↓	↓	作業長会
6/20	月	第2ロット製作開始	↓	↓	
6/21	火	(製作150個)	↓	↓	作業長会
6/22	水	↓	↓	↓	
6/23	木	↓	↓	↓	作業長会
6/24	金	↓	↓	↓	
6/27	月	↓	↓	↓	⑥集会
6/28	火	↓	↓	↓	作業長会
6/29	水	↓	↓	↓	
6/30	木	↓	↓	↓	作業長会
7/ 4	月	第2ロット塗装	↓	↓	
7/ 5	火	↓	↓	↓	作業長会
7/ 6	水	刻印とラバー貼り	↓	↓	
7/ 7	木	↓	↓	↓	作業長会
7/ 8	金	↓	↓	↓	
7/11	月	仕上げ 検品 梱包	「ハンカチ」(260枚)	↓	作業長会
7/12	火	↓	袋詰・検品	↓	
7/13	水	↓	↓	↓	作業長会
7/14	木	↓	↓	↓	
全体での袋詰					作業長会
7/15	金	副校長先生へ納品			
7/19	火	校外学習(打ち上げパーティー)			

3 場の設定・仕事の流し方

自分から仕事にとりかかれるように材料や道具を一定の場所に用意したり、みんなで一体感をもって意欲的に取り組めるようお互いの仕事を見合いながら取り組めるような場の設定を工夫したりすることで、各作業コースの作業場の設定は図2、3、4のようになっ

た。また、生徒の動線や作業工程の流れを配慮することで、互いの取組のつながりがわかり、作業活動の一体感がより強くなり、互いに取組の様子を見て、自分もより頑張ろうとする姿が多く見られるようになった。

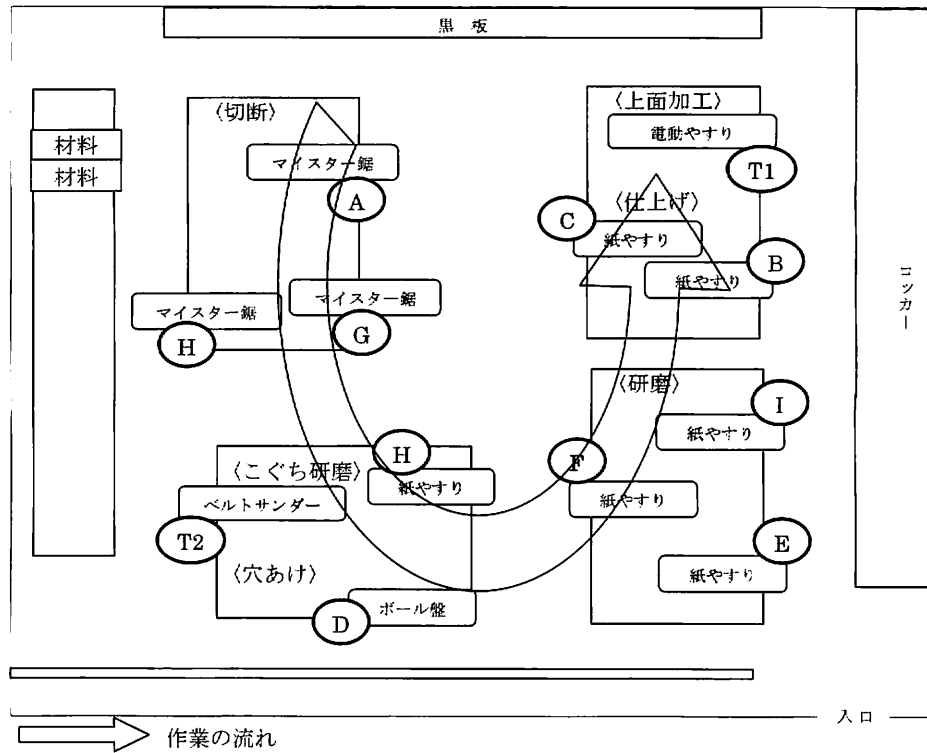


図2 木工コースの場の配置と設定

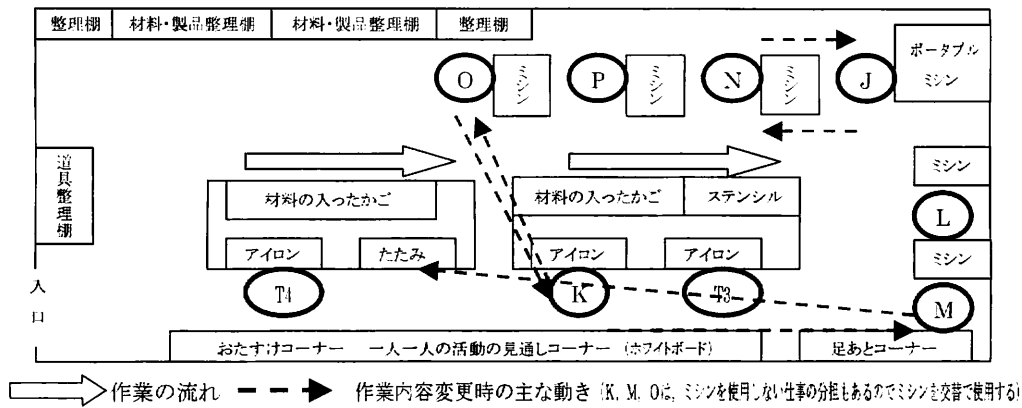


図3 ミシンコースの場の配置と設定

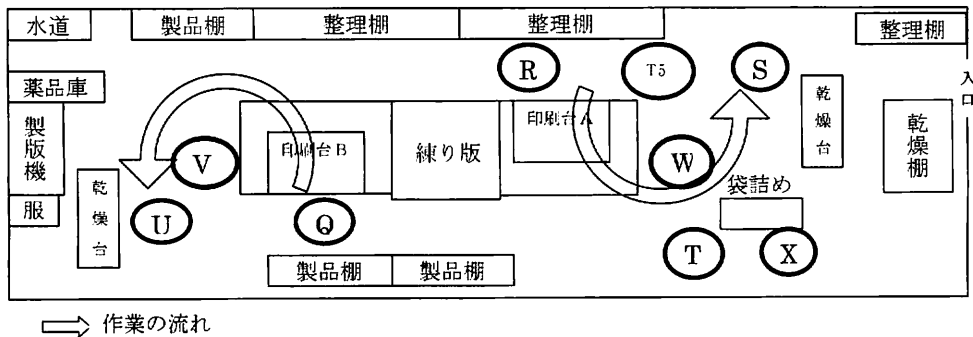


図4 印刷コースの場の配置と設定

4 製品の選び方・作り方

全国から参加された校長先生方への記念品であるため、B県をイメージしやすく、かつ、学校で使えるものとして、B県の特産品のひとつである檜を使ったペン立て、B市の伝統行事である鶴飼いをあしらったコースター、A中ラベルつきハンカチを記念品として製作するようにした。

これらの製作活動において生徒が主体的に活動していけるように、材料の発注・購入・支払いなども生徒の活動としたり、コースターの図案やハンカチの布地の決定を教師

と生徒で一緒に行ったりするようにした。また、そして、コースターとハンカチはこれまでと同じ手順で行うようにすることで、それぞれが見通しをもって取り組むことができた。

5 展開の流し方

対象単元期間中の6月30日に実施した授業研究会の各作業コースの授業展開は表2、3、4に示したとおりである。記念品製作を始めて5週間目となり、それぞれが担当した作業工程を確実に取り組むことができた。

表2 木工コースの授業展開（6月30日）

時配	生徒の活動	支援上の留意点	道具など
5 110	<p>○仕事の準備をする。 ・エプロンなどを着け、それぞれの持ち場に分かれ、道具や工具の点検、材料の準備をする。</p> <p>○「ペンたて」を製作する。</p> <p>〈切断〉 A, G, H ・材木をマイスター鋸で、50mmの長さに切断する。</p> <p>〈穴あけ〉 D ・さしがねを使って穴を開ける位置をけがく。</p> <p>・ボール盤で、φ10mm、深さ35mmの穴を開ける。</p> <p>〈こぐち研磨〉 H, D ・紙やすり#400で研磨する。</p> <p>〈研磨〉 E, F, I ・紙やすり#400で研磨する。</p> <p>〈仕上げ〉 B, C ・紙やすり#800で研磨する。</p>	<p>・授業前に工具の安全点検を行う。</p> <p>・納期までの見通しや本時の製作目標数などを作業長が中心となってみんなに伝え、雰囲気盛り上げるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T1は上面加工、T2はこぐち研磨を担当し、周囲の生徒の支援と安全に留意しながら、仕事を進める。</p> </div> <p>・見通しがもてるように、必要数分の材料だけ用意する。</p> <p>・自分でガイドを調整しながら、材料を送り込んで固定し、一定の長さに切断しているか声をかける。</p> <p>・適切な位置にけがきをしているか声をかける。</p> <p>・材料を固定し、ハンドルをゆっくりまわして安全に作業を進めるように声をかける。</p> <p>・こぐち面のみを研磨するよう声をかける。</p> <p>・材料をセットする向きを戸惑う様子があれば、セットの仕方を教える。</p> <p>・補助具に材料をはめ込み、手で固定して研磨するよう声をかける。</p> <p>・四面（側面）、磨き残しのないよう、適宜、様子を見て声をかける。</p> <p>・補助具に材料をはめ込み、手で固定して研磨するよう声をかける。</p> <p>・全面、隅々まで磨き残しのないよう、研磨する手順やどれくらい研磨するのかを、時々様子を見て声をかける。</p> <p>・後片付けをしながら、本時の完成数や「校園長会」のことなどを話題にし、期待感を高めるようにする。</p>	<p>エプロン 納期カレンダー 製作目標数掲示</p> <p>材木（60mm角） マイスター鋸 ガイド トレイ 固定用バイス</p> <p>さしがね 鉛筆 補助具 （けがき用ガイド棒）</p> <p>卓上ボール盤 補助具 （材料固定用ガイド棒）</p> <p>紙やすり#400</p> <p>紙やすり#400 補助具 （材料固定用ガイド棒） 補助具 （紙やすり固定用具）</p> <p>紙やすり#800 補助具 （材料固定用ガイド棒） 補助具 （紙やすり固定用具）</p> <p>清掃道具</p>
5	<p>○後片付けをする。 ・使用した道具や工具を片付け、掃除をする。</p>		

表3 ミシンコースの授業展開（6月30日）

時配	生徒の活動	支援上の留意点	道具など
10	○仕事の準備をする。 ・エプロンをつけ、作業長を中心にそれぞれ今日の仕事内容と達成目標を確認し、ネームプレートを動かしてから持ち場に分かれて道具や材料の準備をする。	・それぞれの取組や現在の完成数の足あとを日々蓄積し、本時の仕事内容や製作目標が捉えやすいようにする。また、そのことをできるだけ話題にし、雰囲気盛り上げ、意欲を高める。 ・材料や道具を一定の場所に置き、自分から取りかかることができるようにする。	エプロン 納期カレンダー これまでの取り組みの足あとの掲示 製作目標数掲示
100	○「ラベル付きハンカチ」と「ぞうきん」を製作する。 〈ハンカチの直線縫いと仕上げ〉 〈ラベルの固定〉 J, N ・三つ折り部分の柄が全体の柄とずれないように柄合わせをしながら布の両脇を縫い、ハンカチを仕上げ上げる。 ・ラベルがずれないように一本縫って固定する。 〈ハンカチの直線縫い〉 P ・ハンカチの両脇を縫う。 〈ラベルのアイロンかけ・ステンシル・ラベル付け〉 K ・ステンシルで校章のラベルを作る。 ・ラベルを縫い付ける。 ・ラベルを半分に折り、アイロンをかける。 〈ぞうきんのアップリケ・ラベル付け〉 L ・ラベルを縫い付ける ・布の色とあった糸を選び、ぞうきんにアップリケを縫い付ける。 〈ハンカチたたみ・ぞうきんの直線縫い〉 M ・ハンカチをたたみ、専用ボックスにしまう。 ・ぞうきんを縫う。 〈ハンカチのアイロンかけ・ぞうきんの直線縫い〉 O ・ハンカチにアイロンをかける。 ・ぞうきんを縫う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> T3はラベル確認、ラベルしつけ、ぞうきんのしるし付け、T4はハンカチの三つ折り部分のアイロンかけ、ぞうきんのしるし付けを担当し、T3は主にラベル関係、T4はその他の仕事を担当する生徒の支援と安全に留意しながら、仕事を進める。 </div> ・製作目標200枚台に入り、作業も大詰めで急ぎがちになるが、確実に安定した取組ができるように適宜声をかける。 ・縫い目がずれないように、特に布の重なる部分は、めうちで押さえて縫うことを確認し、見届ける。 ・縫い目がずれていないか様子を見て、線の真上が縫えているか声をかける。 ・縫う時に布がずれないようにまち針で多めにとめる。 ・ステンシルは一回ずつ出来具合を確かめるように声をかける。 ・作業内容の変更時、始めに校章と校章が重なるように折ってアイロンをかけることを伝える。 ・仕上がりを丈夫にするために、縫い始めと縫い終わりに一針余分に縫うことを確認し、見届ける。 ・仕上がりを丈夫にするために、必要に応じて縫い方の見本を見せながら、縫い始めと縫い終わりに一針余分に縫うことを確認し、見届ける。 ・角縫いでは、始めに布の角でしるしの真上に針が刺さっているかよく見てから布を回すように声をかけ、一回目の取組は様子を見届ける。 ・糸を選びやすいように、色の系統ごとに糸を分類しておく。 ・四隅をそろえてハンカチをたたむこととラベルが見えるようにたたむことを確認し、見届ける。 ・自分で確認ができるように見本を手元に置いておく。 ・1～2本ずつ縫ってきたぞうきんの縫い目を確かめながら作業の調子を見届け、縫い目がずれているようであれば、線の真上を縫うように声をかける。 ・布が伸びず、しわにならないために上から押さえるようにアイロンをかけることを伝える。 ・1～2本ずつ縫ってきたぞうきんの縫い目を確かめながら作業の調子を見届け、縫い目がずれているようであれば、線の真上を縫うように声をかける。 ・後片付けをしながら、完成数や「校長会長」のことなどを話題にし、期待感を高めるようにする。	ミシン 布 まち針 めうち ミシン 布 まち針 チャコペン ミシン 布 まち針 アイロン アイロン台 ステンシルインク ステンシル枠 固めのステンシル筆 ミシン 布 まち針 糸ケース チャコペン ミシン 布 まち針 チャコペン ハンカチ整理ボックス ミシン 布 まち針 チャコペン アイロン アイロン台
10	○片付け・振り返りをする。 ・作業の後片付けと清掃をする。 ・作業長を中心に本時の振り返りを行い、本日の完成数を確認し、足あとを残す。		清掃道具 納期カレンダー これまでの取り組みの足あとの掲示

表4 印刷コースの授業展開（6月30日）

時配	生徒の活動	支援上の留意点	道具など
15	<p>○仕事の準備をする。 ・印刷台や版などの準備をする。</p> <p>・作業長を中心に、今日の製作目標数を確認する。</p> <p>・版にマスキングをする。 ・版の下に位置合わせの紙を置く。 R, W, Q, U ・刷る仕事に必要な物を用意する。 V, S</p> <p>・乾燥台にあるコースターを集める。 X, T</p> <p>○袋詰の仕事を行う。 〈袋詰〉 X, T ・集めたコースターを袋詰する。</p>	<p>・すぐに仕事に取りかかることができるように、決められた場所に道具や材料を準備しておく。</p> <p>・全員で製品をたくさん作ろうという気持ちを高められるように、本日の目標数を確認する。</p> <p>・マスキングしやすいように、版の下に白い紙を敷いておく。</p> <p>・道具のある位置が分かるように、道具箱の引き出しに名前を書いておく。</p> <p>・集めやすいように、乾燥台専用のワゴン上で製品を集める。</p> <p>・袋詰をした見本を用意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T5は用紙を置く仕事を担当し、周囲の生徒の支援と安全に留意しながら仕事を進める。</p> </div> <p>・声をかけることによって上げ下げのタイミングを確認するようにする。</p>	<p>作業着 納期カレンダー 製作目標数掲示</p> <p>印刷台 スクリーン 留め金 固定板 マスキングテープ 用紙</p>
80	<p>○コースターを印刷する。 【印刷A】 〈版の上げ下げ〉 W ・版の上げ下げをする。</p> <p>〈刷り〉 R ・スキージの力のいれ具合に気をつけて刷る。 ・版が壊れてインクが漏れてきたときには、マスキングをして補修する。</p> <p>〈乾燥〉 S ・刷り終わった製品を受け取り、模様を重ねないように、用紙をそろえて乾燥台に並べる。</p> <p>【印刷B】 〈紙を置く、版の上げ下げ〉 V ・目印に合わせて、用紙を置く。 ・版の上げ下げをする。</p> <p>〈刷り〉 Q ・模様がかすれないように、スキージの角度に気をつけて刷る。</p> <p>〈乾燥〉 U ・刷り終わった製品を受け取り、模様を重ねないように、用紙をそろえて乾燥台に並べる。</p>	<p>・ちょうどよいスキージの力のいれ具合や角度の手本を示す。</p> <p>・刷り上がった製品を効率よく並べられるように、コースター専用の乾燥台を用意する。</p> <p>・定期的にも用紙を置く位置を確認し、上手くできている姿を褒める。</p> <p>・定期的にもインクの量を確認し、少ないときは、インクをたすように声をかける。</p> <p>・自信をもって活動していくことができるように、きちんと並べている様子を褒める。</p> <p>・次時への期待感が高まるように、本時、刷り上げた数と完成数を作業長が数えて仲間に伝えるようにする。</p>	<p>スキージ インク 練り版 イソホロン</p> <p>乾燥台</p> <p>乾燥台</p>
25	<p>○後片付けをする。 ・後片付けと清掃をする。自分の役割が終わったら、他の人の仕事を手伝う。</p>		<p>洗剤 手袋 雑巾 掃除機</p>

授業研究会では、生徒がそれぞれ役割をもち、同じ作業コースの仲間とともに繰り返し活動できるように、製品、作業量、作業工程、補助具などが検討されていることが成果として挙げられた。また、教師も自分の仕

事をもち、生徒とともに働く姿が作業場に一体感のある雰囲気醸し出しているとの感想もあった。ただし、補助具や治具を更に工夫が必要な生徒もおり、教師の検討課題となった。

6 道具・補助具の工夫

木工コースでは堅い檜を原材料としたので、写真1のようなドイツ製のマイスター鋸を使ったり、電動ドリルを新規で購入したりした。また、ドリルのガイド穴を付ける補助具を自作するなどして、手際よく仕事を進められるように、その仕事の内容や一人一人の取組に合わせた補助具を準備した。

ミシンコースは手際よく作業が進められるように、「しるしの線を引く」「まち針をうつ」といった一人一人に応じた事前の準備をしておくようにした。また、ミシンの調子が悪くなったり下糸の巻き方が分からなくなったりしたときに、できるだけ自分の力で対処することができるように、対処に仕方の手順をまとめた写真2のような「おたすけコーナー」を教室前方に設けた。

印刷コースは手際よく作業が進めやすいように、生徒の手の大きさに合わせたスキージを用意したり、写真3のようなコースター用の乾燥台を用意したりした。

ただし、授業研究会では道具や補助具を更に工夫することで仕事を任せることができる生徒もあり、教師の更なる検討が課題となった。

おわりに

我が国の教育界においては、目下、特殊教育から特別支援教育への転換が進められており、その中核となる理念のひとつとして「個々のニーズへの対応」がある。担当する教師の特殊教育歴の短さや専門性の低さなどにより、通常の学級の教育を水増ししたような教育を行っている学級が少なからずある特殊学級においても、その本来の基本的対応である「個々のニーズへの対応」を徹底することが強く求められている。その際の根幹となるものが知的障害児教育において独自の学習

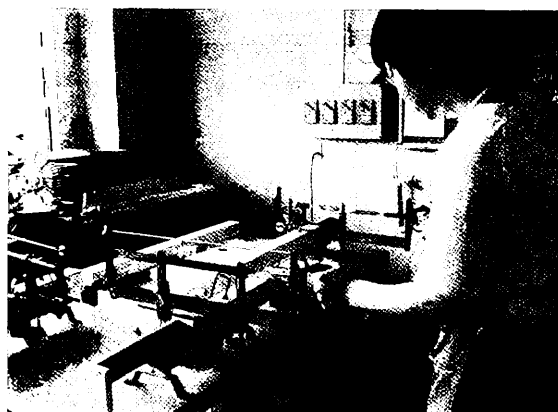


写真1 マイスター鋸



写真2 お助けコーナー

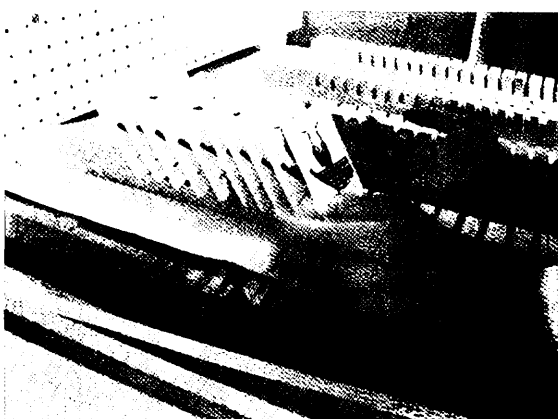


写真3 乾燥台

形態として展開してきた児童生徒の興味関心や生活を重視する生活中心教育であると考ええる。本稿で示したような児童生徒を中心に据えた学校生活の展開はいずれの学級でも実践可能であり、特殊学級から児童生徒を中心に

据えた教育実践が数多く発信されることを祈念したい。

付記 本報告は保護者の了承を得ている。

文献

千葉大学教育学部附属養護学校 (2002a)：実践 生活中心教育。学習研究社。

千葉大学教育学部附属養護学校 (2002b)：生活中心教育の原理。K & H。

教育課程審議会 (1998)：幼稚園，小学校，中学校，高等学校，盲学校，聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について (答申)

文部省 (2000)：盲学校，聾学校及び養護学校学習指導要領 (平成11年3月) 解説—各教科，道徳及び特別活動編一。東洋館出版社。

太田俊己 (2001)：知的障害教育担当教員に求められる専門性。特別支援教育。3。17-20。

坂本 裕・西 正道・緒方 明 (2002)：特殊学級における知的障害児教育の現状と課題 (1)。岐阜大学教育学部研究報告，人文科学，50 (2)，85-96。

坂本 裕・杉山 章・杉山貴子 (2002)：特殊学級における知的障害児教育の現状と課題 (2)。岐阜大学教育学部研究報告，人文科学，51 (1)，163-176。